

日本青年の気候変動政策提言を行うプラットフォーム作り

〒277-0885
千葉県柏市西原1-101
E-mail: info@climateyouthjapan.org
http://climateyouthjapan.org/



ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発



国・世代を超えて持続可能な社会を考える

気候変動に関する記事のリーチ数	8,607リーチ
COP派遣報告会への参加者数	約500人
今年度計画の達成度	85%
活動の全体目標に対する達成度	75%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

最新の政策動向に沿った政策提言を行うためには専門的な知識と不断の情報把握が必要である上、行った提言が実際の政策に反映されるまでには長期間を要することがわかった。

■ 工夫した点

持続可能性に関連した多様なテーマを扱うイベントを開催することで、多くの青年が気候変動問題に関心を持ち、自ら社会を変える行動を起こすことができるようにした。

課題

気候変動政策の立案及び決定プロセスに将来世代の視点が十分に盛り込まれていない。青年が自ら気候変動政策の立案プロセスに関わる活動は国内では皆無である。

目標

気候変動政策に興味を持ち、政策作成・提言提出などを行うことができる青年を育成し、青年たちが気候変動政策に対して継続的に活躍できるプラットフォーム作りを行うこと。

活動内容と成果

●政策提言を毎年行うことで、弊団体が政策立案者から青年代表として意見を求められる機会が増加。●東京五輪に向けた意見発信を行うプラットフォームであるSUSPONユースの立ち上げで主導的な役割を果たした。●団体のFacebookページや外部メディアを通して、選挙時の各政党の環境政策比較、パリ協定関連のニュース、COP会場でのロビイング活動など、青年向けに気候変動に関する記事を160本以上発信 ●エネルギー・国際・ビジネス・東京五輪など、様々なアプローチから気候変動について学ぶイベントを計13回開催



環境省中央環境審議会における提言

全助成期間の活動を振り返って

この3年間で築いた外部とのつながりにより活動は大きく発展した。政策提言はこれまで対省庁が中心だったが、Japan-CLPとの意見交換をはじめとして、対企業など、幅を広げることができた。

また、A SEED JAPANなど他の環境ユース団体とも連携の礎を築くことができた。

今後はますます多様な主体と連携しつつ、日本の若者が主体的に行動し、気候変動問題を解決に導けるように、一層励んでいきたい。



弊団体のメンバーが中川環境大臣に提言を手交

今後の展望

国内の温室効果ガス削減目標の達成を後押しすべく、環境省のCOOL CHOICEキャンペーンへの参画等、新たな活動を活発化させる。

COP派遣に関しては、COP24のタラノア対話に向け、開催前にUNFCCCへ意見書を提出し、意見発信を行うことを検討している。

サステナリンピック事業部では、ウェブサイト等で環境活動を行う全国の若者を紹介し、その活動を企業や個人が支援できる仕組みづくりを進める。